

## 福島第一原子力発電所の廃止措置等の進捗状況

(2025年2月10日時点)

## 2025年度ALPS処理水海洋放出の放出計画(素案)について

ALPS処理水の海洋放出は、原則としてトリチウム濃度の低いものから順次放出することとしています。放出計画の策定に際しては、本原則を踏まえつつ、廃炉に必要な施設の敷地確保や今後のタンクの運用等も考慮して計画しています。2025年度放出計画の素案※を策定しましたのでお知らせします。

※翌年度の放出計画は計画を確定させる前に、福島県をはじめとした関係者の皆さまへ説明を行います。そのため現時点では、素案として放出計画を公表しています。

## 2025年度 放出計画(素案)

年間放出回数	1回当たりの放出水量	年間放出水量	年間トリチウム放出量
7回	約7,800m <sup>3</sup>	約54,600m <sup>3</sup>	約15兆ベクレル 年間放出基準:22兆ベクレル未満

放出開始時期	移送元タンク※1	測定・確認用設備(移送先)	放出水量	処理水の性状※2	
				トリチウム濃度※3	トリチウム総量
4月	G4南エリアB群 K3エリアA/B群※4	A群	約7,800m <sup>3</sup>	22~37万 ベクレル/リットル	2.8兆ベクレル
6~7月	K3エリアA/B群※4 J1エリアE群	C群	約7,800m <sup>3</sup>	22~38万 ベクレル/リットル	1.9兆ベクレル
7~8月	J1エリアE群 G5エリアE群	A群	約7,800m <sup>3</sup>	20~38万 ベクレル/リットル	2.8兆ベクレル
9月	G5エリアE/C/B群	B群	約7,800m <sup>3</sup>	20~22万 ベクレル/リットル	1.6兆ベクレル
10~11月	G5エリアB/A群	C群	約7,800m <sup>3</sup>	22~26万 ベクレル/リットル	1.9兆ベクレル
11~12月	G5エリアA/D群 G4北エリアA/B群	A群	約7,800m <sup>3</sup>	26~30万 ベクレル/リットル	2.2兆ベクレル
点検停止(測定・確認用設備 C群タンクの本格点検含む)※5					
3月	G4北エリアA/B群 H2エリアJ群	B群	約7,800m <sup>3</sup>	26~27万 ベクレル/リットル	2.0兆ベクレル

※1 移送後の移送量(実績)の増減により、移送元タンクの移送順序は変わりませんが、放出回は前倒しもしくは後ろ倒しとなる可能性があります。

※2 2025年度に放出する処理水は、再浄化処理(二次処理)の必要がない、環境へ放出する基準を満たしている処理水です。

※3 放射性物質の放射線を出す能力は、時間が経つにつれて弱まります(減衰)。各放出回のトリチウム濃度は、2025年4月1日時点までのトリチウムの減衰を考慮したタンク群平均の評価値です。

※4 K3エリアA/B群は、2023年度および2024年度に移送・放出により空になったところへ、再度新たにALPS処理水の受け入れを実施済みです。

※5 ALPS処理水希釈放出設備の維持管理を目的に測定・確認用タンクの本格点検を計画しており、2025年度はC群・2026年度はA群の本格点検を計画しています。(B群は2024年度に実施)

現在、福島県をはじめとした関係者の皆さまに素案の説明を行っています。今後、皆さまからいただいたご意見を踏まえ、2025年度の放出計画を確定し、改めて2024年度末に公表します。

# ALPS処理水希釈放出設備の点検状況について

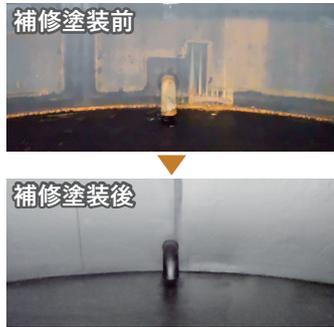
ALPS処理水の海洋放出は長期にわたる取り組みです。設備の点検を計画的に行い、設備の状況に応じた適切なメンテナンスを行うことで、安全で安定的な海洋放出を実施していきます。

2024年度のALPS処理水希釈放出設備の点検は、2024年8月から順次実施しており、現時点において放出工程に影響を与える異常は確認されていません。各設備の点検状況を以下にお伝えします。

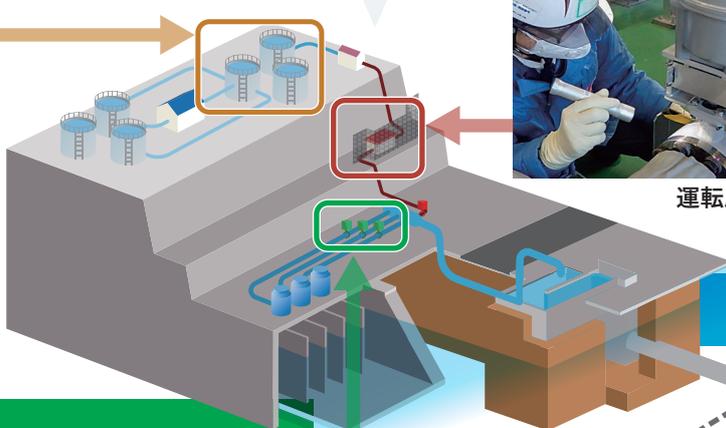
## 測定・確認用設備

A群・C群ともに、塗装の膨れ・割れおよび錆等が確認されましたが、タンクの健全性に問題が無いことを確認しました。両群ともに塗装等によるタンク内部の補修を完了しています。B群については、現在10年に一度の本格点検を実施中です。

### 【C5タンク(C群)の内部状況】



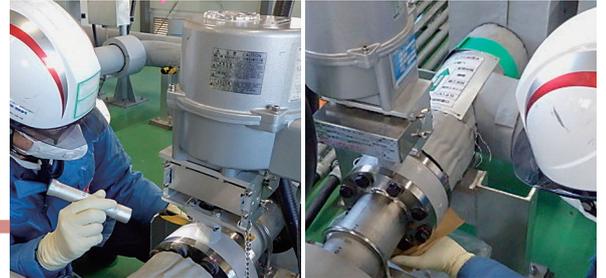
### ALPS処理水希釈放出設備の全体イメージ



## 移送設備

設備の異常兆候の早期発見と機能維持のため、緊急遮断弁やALPS処理水移送ポンプ等の点検を実施中です。

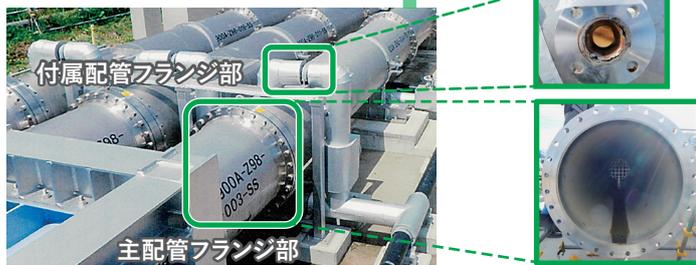
### 【緊急遮断弁(電磁駆動弁)の点検状況】



運転圧漏えい確認を実施

## 希釈設備

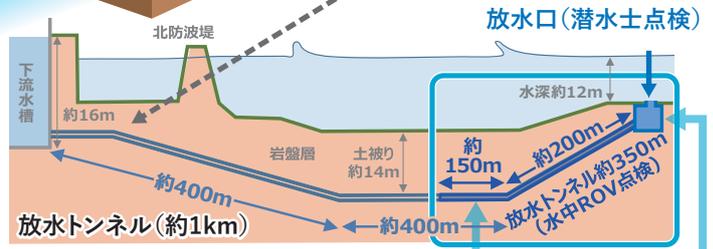
### 【海水移送配管】



海水移送配管の内部状態は良好で、ALPS処理水の希釈に必要な海水の移送に問題はありませんでした。付属配管のフランジ部に一部腐食を確認しましたが、必要な補修を実施します。なお、配管に使用している2相ステンレスは腐食に強い材質ですが、腐食有無を確認するため、毎年の年次点検でメンテナンスを実施していきます。

## 放水設備

### 【放水口・放水トンネル】



### 下流水槽方向



放水口と放水トンネル出口から約350m地点までの内面点検を潜水土と水中ROV※により実施し、コンクリートの損傷なども見られず、設備に異常が無いことを確認しました。

※Remotely Operated Vehicleの略称。遠隔操作型の無人潜水機です。今回使用した水中ROVのサイズは、寸法0.6m×1.2m、重量約56kg

■ ■ 上記は、点検の一部となります。他にも主要な設備(付属設備含む)について点検を実施しています。 ■ ■

## 東京電力ホールディングス株式会社

福島第一廃炉推進カンパニー  
廃炉コミュニケーションセンター コミュニケーション企画グループマネージャー

〒979-1301 福島県双葉郡大熊町大字夫沢字北原22

本紙に関するお問い合わせ

TEL (0240) 30-5531 (平日午前9時～午後4時)

編集発行  
責任者

こちらでもご覧いただけます。  
【1ForAllJapan】<https://1f-all.jp/>  
目次より「いちえふのいま」を選択

